

(様式2)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	1 0	学校名	宇都宮市立清原中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和4年度 学習指導に関する取組

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・学習内容定着度調査における標準スコアは49.5であり、昨年度に比べ0.4ポイント上昇した。しかし、市平均の数値50には届いていない。
- ・定着度調査において、正答率が宇都宮市の平均を2ポイント以上下回る教科の領域は以下のとおりである。国語「情報の扱い方に関する項目」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」、社会「歴史的分野」、数学「図形」「関数」、理科「粒子」「地球」。ただし、多くの教科において、昨年より正答率の上昇が見られる。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・昨年度の課題であった質問「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。」の肯定的回答割合が全学年で市の平均を上回った。しかし、質問「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」の肯定的回答割合は、1学年と3学年で市の平均を下回った。例年本校の苦手意識として指摘されている課題である。
- ・質問「調べたことを、パソコンを使ってまとめることができる。」の肯定的回答割合が全学年で市の平均を上回っており、質問「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」の肯定的回答割合は、1学年が市の平均と同じで、2,3学年では市の平均を大きく上回っている。これは、本校でのICT教育の取り組みの成果が、現れてきているものと考えられる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・授業におけるきちんとした挨拶は定着しているが、指名に対する返事はいまひとつである。基本的な授業態度に対する指導は、ポイントを絞ってさまざまな働きかけを講じる必要がある。
- ・新学習指導要領実施に伴い、授業における「ねらいの提示」「学びあい」「まとめ」「振り返り」の適切な位置づけを意識した取組は定着しつつあるので、今後も継続していく必要がある。
- ・家庭学習における自主学習ノートの活用は、おおむね習慣化されつつある。今後はAIドリル等を活用し、更なる効率的な家庭学習の仕方や学習内容の選択、学習時間の確保について指導を継続する。
- ・GIGAスクール構想の実現に向けて、配備されたICT機器(特に1人1台端末の環境)を有効に授業に活用すべく、研修や実践機会を今後も継続して講じる必要がある。
- ・「宇都宮学」を効果的に位置付けたカリキュラムマネジメントの在り方についてはさらに研究が必要である。

2 今年度の重点目標

- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」の育成
- ・学習に1人1端末などを活用しながら自主的・主体的に取り組み、他者との対話を活かして、自らの学びを深めることができる生徒の育成

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 目標にむかってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成

○「学習の3つの決まり ・チャイム着席 ・きちんと起立・礼、指名されたらハイ」の徹底を図る。（通年）

□「きよはら学習ガイド」を配付し、家庭学習の進め方を指導する。（4月）

★「自主学習ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示、A Iドリルの活用等により、毎日の家庭学習を習慣付ける。（通年）

□「今日の目標」を確実に理解させ、「振り返り」から生徒の学びに向かう態度を適切に見取することで、課題に粘り強く取り組むことができる生徒の育成を図る。（通年）

・読書の習慣付けを図るため、「朝の10分間読書」を日課に位置づけ、また「図書だより」等の発行等で読書推進の啓蒙と魅力ある学校図書館づくりを図る。（通年・11月）

(2) 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

□ICTや学校図書館を活用し、個に応じた分かりやすい授業を展開し、個別最適な学びを推進する。（通年）

※教室に常備された1人1台端末の活用を促進する。

□授業づくりの重点研究目標を『ICTを活用して行う主体的・対話的で深い学び』として、学年ごとに時期を決めて、1人1授業公開を実施する。実施後、授業の改善点や指導方法などについて教科部会でアドバイスし合う。（9月、10月、11月）

○授業において必ず「今日のめあて」「振り返り」等の掲示を徹底し、生徒にとって本時の授業の内容が把握しやすいようにする。

★数学科および英語科においては、T・Tや習熟度別学習の効果的な指導法を工夫する。（通年）
・定期テスト終了後にアドバイスシートを作成しテストの振り返りと基礎の定着に活用させる。

★「学習内容定着度調査」や「学習と生活についてのアンケート」の効果的な活用を図るために、全職員で分析に当たる。（8月、2月）

(3) 新学習指導要領の着実な実施とOJT

★全教員が「宇都宮モデル」を活用した授業実践に取り組む。（通年）

・各教科・領域での要請訪問を計画的に実施する。（今年度は保健体育と学級活動）

・作新学院大学・宇都宮大学等の学生ボランティアによる「学習支援」の実施。

★小中学校間の連携による学習指導の充実・相互乗り入れ授業や部会研修会などを通して教科の課題について意見交換し、指導方法について協議する。

・「学校・学年・学級だより」、「学校HP」などを定期的かつ継続的に発行し、学校生活に関する情報提供を行う。（通年）

・適応支援教室では、遅れがちな生徒の特性を理解し、配慮をしながら支援に当たるよう工夫する。（通年）

○指導と評価の一体化を図り、生徒一人一人の良さを適切に評価し、生徒の資質・能力を伸ばす。（通年）

□不登校生徒に対しては、保護者に対しオンライン学習等の校内サポート体制を説明し、負担にならないよう配慮しながらテストや課題を可能な限り提供し、家庭での学習の取組を評価に生かす。（通年）